

令和7年度

授業改善推進プラン【後期課程】

- ①令和7年度北区立中学校(後期課程)学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和7年度第7～9学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立都の北学園

令和7年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析									
国語	読み取り問題や作文に課題が見られた。基礎・基本の定着を図りながら、教科書以外の文章にも触れさせ、所見の問題や発展問題にも対応することができる力の醸成を図っていく。	社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。							
社会	確実に学習内容の定着を図る学習活動の推進に加え、自分で調べ、文章にする学習活動を取り入れたり、ICT機器を活用した視覚資料を用いた丁寧な解説をしたりすることにより、学習への意欲を高め、主体的に学習を行う態度の育成を図る。	1. 自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人(ゆたかな心) 2. 自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人(学びつづける力) 3. 心も体も健康で、仲間とともに取り組む人(すこやかな体)							
数学	基本的な計算力が身に付いている生徒が多く、これからも基礎学力を定着させ発展的内容に取り組み、さらに力を伸ばしていく。そのために協働学習を活用し、学び合い、教え合う環境を整え、思考力を高めていく。								
理科	既習事項の定着が不十分かつ、考える力や応用力が足りない部分が見られるので、復習中心に家庭学習の充実を図る。また、授業の中では、復習の機会や考える時間・話し合いの場を確保し、確かな力を身に付けさせる。								
英語	語彙量を増やし英語を理解する力を向上させることや、既習の語彙や文法を用いて理解した内容を英語で説明するなど、自己表現の幅が増えるよう指導し、偏りのない総合的な能力の向上を図る。								
本校が生徒に育成したい力									
○基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上	・各教科の単元、題材のまとめの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。 ・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。 ・学習する生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。 ・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。 ・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。 ・正しい日本語を用いて指導に当たる。 ・多様なニーズに対応できるよう、教材準備に努める。								
○家庭学習の習慣化				○校内における学力向上推進体制 ○校内研究を日々の授業に生かし、思考力を高めるための課題設定の工夫を中心に行なっていく。 ○ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業をして、学力の向上を図る。 ○授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。					
○各教科の思考力・判断力・表現力の育成									
○学びに向かう力の育成									
校内における学力向上推進体制									
本校の授業改善に向けた視点									
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫					
・各教科の単元・題材のまとめの計画を立ててから授業に臨む。 ・課題に応じた指導に重点を置き、基礎基本の定着を図る。 ・ALTを活用した英語教育の改善を図る。また、数学科で東京方式の習熟度別少人数授業を実施する。 ・一人1台端末「きたコン」の活用を充実させ、基礎基本の定着や考え方の共有による学びの深まりを実現していく。	・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・GIGAスクール構想における一人1台端末「きたコン」を活用とした授業の実施。	・研究主題が「自ら学びつづける児童・生徒の育成」である校内研究を推進し、思考力を高めるための課題設定の工夫を中心に授業改善を行い、生徒の学びに向かう力を育成する。研究推進委員会を中心に計画的・組織的に実施する ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的に行い、それぞれの授業力を向上させる。	・意図的・計画的な指導を通して、授業と評価の一体化を図る。 ・「後期課程評価計画」を作成し、生徒と保護者に周知する。	・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子どもを育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による生徒の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者等による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。					

〔様式2〕

令和7年度 第7学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立都の北学園

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は67.3%で全国平均を2.8ポイント、区平均を0.7ポイント上回る結果となりました。内容項目別(全8項目)で区平均を下回ったのは「インタビューの内容を聞き取る」が4.7ポイント、「文法・語句に関する事項」が0.9ポイント、「説明的な文章の内容を読み取る」が5.3ポイント、「文学的な文章の内容を読み取る」が3.5ポイントでした。他の3項目は上回りました。	観点別(全2観点)では「知識・技能」が全国平均を4.7ポイント、区平均を2.8ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を1.5ポイント上回りましたが、区平均を0.8ポイント下回りました。	内容「漢字を読む」と「漢字を書く」の正答率の高さが観点「知識・技能」の正答率の高さにつながっています。しかし、「思考・判断・表現」は、「文章を書く」の正答率は高いですが、「説明的な文章の内容を読み取る」や「文学的な文章の内容を読み取る」の正答率が低いため、全体として区平均を下回る結果となっています。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は53.4%で全国平均を0.1ポイント下回り、区平均を0.4ポイント上回る結果となりました。内容項目別(全7項目)では「日本国憲法」が全国平均より3.5ポイント、「繩文時代～平安時代」が1.6ポイント、「明治時代～昭和時代」が全国平均より3.0ポイントと下回りました。他の3項目は全国平均も区平均も上回っています。	観点別では「知識・技能」が全国平均同等のポイント、区平均を1.0ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を0.1ポイント下回り、区平均を0.8ポイント上回りました。	教科の正答率が基礎的な力は区・全国平均を上回っているため、観点別の「知識・技能」のポイントは平均を上回っています。しかし、活用する力は区・全国平均を下回っているため、「思考力・判断力・表現力」は区・全国平均を下回り、活用する力の低さが課題となっています。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全国平均と比較すると11個の内容のうち、4つが下回り、7つが上回りました。特に「整数の性質」は-7.4ポイント、「データの活用」は-4.4ポイント、「いろいろなグラフの読み取り」は+11.7ポイント、「小数・分数の計算」は+11.4ポイントという結果となりました。	知識・理解が全国平均を3.1ポイント、区平均を0.2ポイント上回りました。思考・判断・表現では全国を0.7ポイント、区を4.8ポイント下回りました。	基礎的な学力は定着しているものの、それを活用する力に伸びしろがあることが伺えます。その1つとして「データの活用」の正答率の低さが参考材料としてあげられます。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を2.4ポイント下回り、区平均も0.6ポイント下回りました。内容別では、「物質・エネルギー」で0.9ポイント、「生命・地球」で3.4ポイント全国平均を下回りました。	「知識・技能」は全国平均を2.3ポイント、区平均を0.1ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を2.5ポイント、区平均を1.5ポイント下回りました。全体的に下回っていました。	基礎的な知識や実験の技能については、定着しています。選択問題の無回答率が低いですが、どの分野であっても記述で答える問題を全体的に苦手としているため、「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながったと考えられます。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均に対して、全国平均を3.7ポイント、区平均を1.2ポイント上回る結果となりました。内容別では、九つの内容のうちすべて全国平均を上回りましたが、二つは区平均を下回りました。「英文の読み取り」が区平均を1.2ポイント、「単語の読み」が0.7ポイント下回る結果となりました。	「知識・技能」は全国平均を3.5ポイント、区平均を1.1ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を4.3ポイント、区平均を1.4ポイント上回りました。	前期課程で学んできた「聞くこと・話すこと」が中心の学習で基本的な英語力が定着していることが伺えます。一方で、「英文の読み取り」や「単語の読み」の苦手さが「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」に比べて低いことの要因になっていると考えられます。

〔様式2〕

令和7年度 第8学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は66.6%で、全国平均を1.6ポイント上回る結果となりました。内容項目別(全8項目)では、「話し合いの内容を聞き取る」が全国平均を7.0ポイント、「文学的な文章の内容を読み取る」が全国平均を5.9ポイント下回る結果となりました。	観点別では「知識・技能」が全国平均を3.9ポイント、区平均を1.6ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を4.6ポイント、区平均を5.7ポイント下回りました。	読み取ったり聞き取ったりする問題の正答率が低く、漢字や語句の基礎から定着させていく必要があります。また、文章や作文を記述する問題の正答率も低いため、自らの体験を、国語の知識と結び付けていく練習を日頃の授業から実施する必要があります。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は46.2%で全国平均を0.6ポイント上回り、区平均を1.4ポイント上回る結果となりました。内容別にみると全国平均を上回った項目は「日本の姿」(5.0ポイント)、「世界各地の人々生活と環境」(1.9ポイント)、「世界の諸地域」(3.3ポイント)、「中世の日本」(1.1ポイント)で、下回った項目は「世界の姿」(-3.1ポイント)、「縄文時代～古墳時代」(-4.0ポイント)、「飛鳥時代～平安時代」(-2.1ポイント)でした。	観点別(全2観点)では「知識・技能」が全国平均を0.1ポイント下回り、区平均を0.6ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を1.7ポイント、区平均を2.4ポイント上回りました。	内容「世界の姿」「縄文時代～古墳時代」の正答率の低さが、観点「知識・技能」の正答率の低さにつながっています。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を8.5%、区平均を4.5ポイント上回りました。すべての内容項目で全国平均を上回る結果となりました。「1次方程式」が全国を12.1ポイント、区を6.3ポイント上回りました。「文字式」が全国を11.9ポイント、区を9.0ポイント上回りました。「正の数・負の数」については、全国平均を2.6ポイント、区平均を0.9ポイント上回りました。	知識・理解が全国平均を8.4ポイント、区平均を4.5ポイント上回りました。思考・判断・表現では全国平均を8.5ポイント、区平均を4.4ポイント上回りました。全体で全国平均と区平均を上回ったとはいえ、問題別にみると「正の数・負の数」は目標値を達成していないため、課題であると考えます。	内容別正答率や全ての観点で全国平均を上回っており、学力が定着している生徒が多いことが伺えます。その中で内容項目「1次方程式」と「文字式」の正答率の高さが観点「知識・理解」の正答率の高さにつながりました。内容項目「比例反比例」と「空間図形」の正答率の高さが観点「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながりました。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を1.0ポイント上回り、区平均も3.7ポイント上回りました。内容別では、全国平均と比べると、エネルギーの分野で3.3ポイント、粒子の分野で4.5ポイント上回り、生命の分野で0.7ポイント、地球の分野で3.8ポイント下回りました。	「知識・技能」は全国平均を1.4ポイント下回り、区平均を2.8ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を3.5ポイント、区平均を4.7ポイント上回りました。全体で全国平均と区平均を上回りましたが、観点別でみると下回る観点があることも分かります。	基本的な知識や実験の技能については、定着ができます。「思考・判断・表現」の正答率もそれなりにありますですが、生命分野と地球の分野が全国平均からも低いように、これらの分野の知識が身についていないため、このような結果になったと考えられます。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は59.0%で全国平均を7.7ポイント、区平均を0.9ポイント上回る結果となりました。問題の内容別項目については4項目が区平均を下回る結果となり、特に「語形・語法の知識・理解」に関する結果は区平均を2.5ポイント下回る結果となりました。	「知識・技能」については区平均を0.6ポイント下回りました。「思考・判断・表現」については区平均を2.4ポイント、全国平均を9.4ポイント上回る結果となりました。	「語形・語法の知識・理解」と「語彙の知識・理解」の正答率が低いことが、「知識・技能」の観点別正答率の低さにつながっています。

〔様式2〕

令和7年度 第9学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は62.8%で全国平均を1.5ポイント上回り、区平均を1.4ポイント下回る結果となりました。内容別にみると全国平均を下回った項目は「漢字を書く」(-0.6ポイント)、「文法・語句に関する事項」(-3.4ポイント)、説明的文章の読み取り(-0.4ポイント)でした。	観点別(全2観点)では「知識・技能」が全国平均を0.7ポイント上回り、区平均を2.0ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を2.2ポイント上回り、区平均を0.9ポイント下回りました。	内容「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の正答率の低さが、観点「知識・技能」の正答率の低さにつながっています。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は42.5%で全国平均を2.6ポイント下回り、区平均を3.6ポイント下回る結果となりました。内容別にみると全国平均を上回った項目は「日本の諸地域」(2.3ポイント)で、下回った項目は「日本の地域的特色と地域的区分」(-0.5ポイント)、「地域調査の手法」(-3.4ポイント)、「ヨーロッパ人の出会いと全国統一」(-5.4ポイント)、「江戸時代」(-8.6ポイント)、「明治時代」(-2.4ポイント)でした。	観点別(全2観点)では「知識・技能」が全国平均を5.4ポイント下回り、区平均を6.4ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を1.9ポイント上回り、区平均を0.9ポイント上回りました。	内容「ヨーロッパ人の出会いと全国統一」「江戸時代」の正答率の低さが、観点「知識・技能」の正答率の低さにつながっています。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を12.7ポイント、区平均を5.2ポイント上回りました。すべての内容項目で全国平均を上回る結果となりました。「式の計算」が全国を20.1ポイント、区を11.8ポイント上回りました。「図形の性質」が全国を13.6ポイント、区を4.4ポイント上回りました。「データの分布の傾向」については、全国平均を4.0ポイント上回ったものの、区平均を4.1ポイント下回りました。	知識・理解が全国平均を13.1ポイント、区平均を5.7ポイント上回りました。思考・判断・表現では全国平均を11.5ポイント、区平均を4.0ポイント上回りました。全体で全国平均と区平均を上回ったとはいえ、問題別に見ると目標値を下回る問題もあるため、まだまだ伸びしろがあります。	内容別正答率や2つの観点で全国平均を上回っており、学力が定着している生徒が多いことが伺えます。その中で内容「式の計算」と「確率」の正答率の高さが観点「知識・理解」の正答率の高さにつながりました。内容「証明」の正答率の高さが観点「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながりました。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を1.9ポイント上回り、区平均も2.2ポイント上回りました。内容別では、「化学変化と物質の質量」で4.4ポイント、「日本の気象」で5.9ポイント、「電流の性質」で10.5ポイント、「電流と磁界」で6.7ポイント、全国平均を上回りました。	「知識・技能」は全国平均を3.5ポイント、区平均を4.3ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を0.5ポイント、区平均を1.0ポイント下回りました。全体で全国平均と区平均を上回りましたが、観点別で見ると下回る観点があります。	基本的な知識や実験の技能については、定着ができます。しかし「前線の通過と天気の変化」「電流と磁界」に関する記述問題で、思考したことを文章にすることができず、「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながったと考えられます。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を5.9ポイント上回り、区平均は1.6ポイント下回りました。「聞くこと」が全国を7.4ポイント、区を0.7ポイント上回りました。「読むこと」は全国平均を2.0ポイント上回った一方で、区を4.3ポイント下回りました。様々な英文を読み取る能力に課題があることがわまりました。	「知識・技能」が全国平均を4.7ポイント、上回り、区平均を2.4ポイント下回りました。「思考・判断・表現」では全国を7.2ポイント上回り、区は0.5ポイント下回りました。	「さまざまな英文の読み取り」の苦手さが観点「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながっていると考えられます。「語彙の知識・理解」の正答率が高く、「知識・技能」の正答率の高さにつながったと考えられます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	平均正答率では、全国、区の平均とともに上回っているので、全体的には前期課程（または小学校）での学習内容が定着していることが伺えます。ただし、内容別で平均を下回った「インタビューの内容を聞き取る」、「説明的な文章の内容を読み取る」、「文学的な文章の内容を読み取る」の問題については、既習事項を確認しながら、繰り返し文章の読み取りをする必要があります。大きく上回った「文章を書く」は、今後も書くことへの抵抗を減らす工夫をしながら、書く機会や添削する機会を増やしていきます。	文章の読み取りについては、叙述に基づいて読むことができるよう学習プリントに全文を印刷し、学習内容を一覧できるようにします。新出漢字については、授業の導入で学習する時間を設定し、学習の習慣が付くようにします。また、毎週、漢字小テストを実施し、定着の有無を確認するとともに、漢字学習への意欲向上を図ります。「文章を書く」では、一人1台端末「きたコン」を活用していきます。縦書き、横書き、通知文等、作成した内容を生徒が相互に読み合い、添削や推敲ができるようにします。	一人1台端末「きたコン」のアプリケーションから演習問題を随時配信します。難易度を自分で調整できるように設定しておくことで自己調整できるようにします。文章を書く際には、教科書の模範例に加えて、教員が教科書よりも難易度を調整した模範例を提示することで、さまざまな学習段階の生徒に対応できるようにします。また、書くことに抵抗が大きい生徒には字数が少なくて済むようにし、挑戦できる生徒には1600字や2000字等の学校代表作品の選出基準となる上限字数を提示して、意欲向上を図ります。
8年	平均正答率では、全国、区の平均とともに上回っており、これまでの学習内容が定着していることが伺えます。しかし、「話し合いの内容を聞き取る」や「文学的な文章の内容を読み取る」等の読み取りの問題、そして「体験したことを文章に書く」や「文章に書く」等の文章記述問題が全国、区の平均を大きく下回っているため、国語の基礎的な漢字・語彙の定着を目指しながら、普段の授業から読み取り問題や文章記述問題等に繰り返し触れていくことが、平均を高めていく上でのポイントになるとを考えます。	読み取りの問題に関しては、教科書の文章だけでなく、様々な文章に授業内で触れさせ、初出の文章への抵抗を減らすことができるよう努めます。「話し合いの内容を聞き取る」の平均向上のためには、授業内で話し合い活動を多く導入し、聞き取った成果をワークシート等にメモするという活動を習慣化します。また、文章記述問題に関しては、授業で学んだ内容を実生活と結び付け、自らの体験を記述することができるよう、生徒が身近に授業内容を捉えられるような発問や問い合わせを繰り返し実践していきます。	読み取り問題に関しては、高校受験の過去問題集や受験対策の問題集等を用意し、初出の文章の読み取り方などを解説していきます。教科書の文章についても、初読の感想や解釈について、複数の生徒で共有しながら他者の解釈に触れ、客観的に文章を読み解く力を醸成します。文章記述問題では、授業において文章を書かせる活動を多く導入し、定期考査の作文問題に繋げていきたいと考えています。また、上記で用意する高校受験の過去問題集や受験対策の問題集等の作文問題も活用し、初出の問題に対応する力を2年次から養っていきます。
9年	平均正答率は全国平均を上回っていますが、内容別に見ると、全8項目中3項目で全国平均を下回る結果となりました。中でも「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」については、既習事項の定着が不十分であると考えられるため、繰り返し復習し、確実に定着させる必要があります。また、「説明的文章の読み取り」に関しては、教科書教材以外の文章にも触れさせ、授業で学んだ読み取りの技術を、他の文章においても活用できるよう指導していく必要があると考えられます。	新出漢字は授業冒頭に学習時間を設け、毎週の小テストで定着と意欲向上を図ります。文法・語句も単元後に復習機会を設け、基礎の定着を促します。説明的文章では教科書外の文章にも触れさせ、要点把握や主張の読み取りを実践的に指導し、要約や意見記述を通して思考力を育てます。	説明的文章と図表・グラフ・別の文章など複数資料を組み合わせた読解に取り組ませ、情報の比較・統合力を高めています。また、筆者の主張を批判的に吟味する活動などを行い、より深い読解力の育成を目指します。さらに考えたことをプレゼンテーションや意見文などの形にまとめて自分の意見を表明する力も育てています。これらの活動にはICT機器を積極的に活用させます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社　会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	平均正答率は53.4%で全国平均を0.1ポイント下回り、区平均を0.4ポイント上回る結果となりました。領域別にみると、「我が国の政治」「世界の中の日本の役割」は区・全国平均を上回る結果となりました。しかし、「我が国の歴史」は区の平均を0.1ポイント下回りました。特に、「縄文時代～平安時代」と「明治時代～昭和時代」の正答率が全国平均・区内平均ともに低い結果となっています。また、「基礎」や「知識・技能」は区の平均を上回っていますが、「活用」や「思考力・判断力・表現力」に関しては、区・全国平均を下回っています。知識をもとに、考えたり、文章などをちひいて表現する力を高める学習指導が平均を高めるポイントとなります。	歴史的分野に対して、苦手意識を感じている生徒が多いため、単に覚えるだけの学習活動だけではなく、自分で調べ、文章にする学習活動を取り入れていきます。これにより、歴史の出来事の背後関係や結果について、「単に覚える」のではなく、思考する中で、身に付けることができると考えます。この学習活動が、観点別で正答率が低かった「思考力・判断力・表現力」の強化にもつながると考えます。	基礎的な内容を定着させていくために、小プリントに取り組ませ、学習内容の復習を行っていきます。また、単元の最後に、単元で学習したことを自分の言葉でまとめたり、単元を通しての問い合わせに対する答え自分で考えて文章にする活動を取り入れて、「思考力・判断力・表現力」を高めていきます。
8年	平均正答率では、全国、区の平均とともに上回っており、これまでの学習内容の基礎的な用語・事項の理解はほぼ順調であることが分かります。ただし、理解がやや不十分な部分があるため、問題によっては知識の定着が不足していること、また、学習量と復習が不足していることが課題と考えられます。特に、教科の正答率の基礎が全国の平均を若干下回ってしまっているため、より幅広い内容で社会科の基礎的な用語・事項の定着を図ることが、平均を高めていく上のポイントになると考えます。	基礎的な用語・事項の定着に関しては、定期的に既習事項の確認や小テストの実施をすること、普段の授業から前時の復習を取り入れること、学習への取り組みへの自己評価を実施し、用語・語句の定着の強化を図ります。さらに課題への取組状況を注視しながら生徒同士で学習内容の相互紹介をさせるなど、取組みが不足している者に対し学習への刺激を与えることにより、学習に取り組む意欲を育てます。また、社会的用語を提示するカードを活用し基礎的な内容の知識の補充・定着に務めるとともに、ICT機器を活用した視覚に訴える資料提示により、丁寧な解説をしていきます。	長期休業中の課題を有効に利用し、都道府県ポスターや歴史年表の制作に取り組ませることにより、地図、イラスト、グラフ、出来事の流れを効果的に表現する力の育成を図ります。さらに、税の作文への取組を通して文章による表現を通じ思考力の向上を図ります。また、ジグソー学習など多様なグループ学習を取り入れ、一斉講義形式以外に、意欲的に学習活動へ参加できるような授業形態を工夫していきます。
9年	平均正答率では、全国、区の平均とともに下回っており、これまでの学習内容の基礎的な用語・事項の理解が不十分であるために知識の定着が不足していること、また、社会科への関心が低いために学習量と復習が不足していることが課題と考えられます。特に、教科の正答率の基礎が全国、区の平均を大きく下回ってしまっているため、社会科の基礎的な用語・事項の定着を図ることや学習意欲を向上させることが、平均を高めていく上のポイントになると考えます。	基礎的な用語・事項の定着に関しては、定期的な既習事項の確認や小テストの実施をすること、普段の授業から前時の復習を取り入れること、学習への取り組みへの自己評価を実施し、用語・語句の定着の強化を図ります。学習意欲の向上に関しては、新聞等のニュースを提示し現代社会とのつながりを感じさせるような授業の展開を行うこと、小テストの結果を丁寧にフィードバックし成就感を感じさせる等を実践していく、学習習慣の確立と学習への動機づけを図ります。	長期休業中の課題を有効に利用し、基礎的な内容を定着させていくために学習ワークの復習を働きかけ、休み明けに小テストを実施して、8年生の学習内容の復習を実施していきます。また、ディベート学習や模擬裁判などを導入することにより、多様なグループ学習に加えて現代社会の課題を考えさせる活動を取り入れ、一斉講義形式以外に、意欲的に学習活動へ参加できるような授業形態を工夫していきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	全国平均と比較すると11個の内容にうち、4つが下回り、7つが上回りました。特に「整数の性質」は-7.4ポイント、「データの活用」は-4.4ポイント、「いろいろなグラフの読み取り」は+11.7ポイント、「小数・分数の計算」は+11.4ポイントという結果となりました。解き方だけでなく、考え方も含めた丁寧な指導や、活用したり説明したりする力を伸ばしていくことが課題と考えます。	授業の導入では前時の復習を行い、基礎基本の定着を図ります。習熟度別少人数指導活用し基礎クラスでは計算問題を特に丁寧に練習し、力を伸ばしていきます。標準クラスでは協働学習を取り入れながら、意見交換を活発にし、考える力や表現する力を伸ばし、思考力を高める授業展開をしていきます。	単元ごとに小テストを実施し、定着度を確認しながら進めています。その結果、基礎クラスでフォローが必要と判断した生徒には補助指導員と協力しながら、個の対応をしていき、つまづきを減らす工夫をしていきます。標準クラスでは発展的な内容にも挑戦し、数学を活用することの楽しさを味わいながら、意見交換や発表を通じて深く学ぶことができるよう促しています。
8年	30問のうち目標値を超えたのが5問ありました。特に、「正負の数」の「絶対値について」の理解、「反比例」の判断とその説明、「データの分布と傾向」の判断とその説明をする問題につまづきが多くかったです。「1次方程式」「文字式」の正答率は高く、基本的な計算問題を解く力をもっている生徒が多いことが分かりました。このことから、普段あまり使わない言葉の意味の定着、物事を論理的に説明する力が不足していると予想されるので、その解決に向けた授業作りが必要であると考えられます。	少人数指導を行っているため、基礎クラスでも普段の授業から数学用語をきちんと用いて繰り返し説明し、言葉の意味を忘れないように指導します。また説明する力は8年生の後半で行う図形の証明問題で論理的思考の練習をして伸ばしていくと考えます。何を根拠にしてそれが言えるのを明確にすることがきちんと説明できることへつながると考えます。	授業前の復習計算プリントで定着度を確認し、特に基礎クラスでは補助指導員とともに協力しながら、基礎の定着を図ります。標準クラスでは解くときのミスが減るように注意すべき点を紹介しながら、さらなる計算力の向上を目指します。また、普段より協働学習を進めていき、話し合い活動を通じて説明する力、言葉で表す力を高めて、思考力向上に役立てていきます。
9年	平均正答率は全国平均を12.7%、区平均を5.2ポイント上回る結果となりました。問題内容別に見てみると、「1次関数」において、正答率と目標値との差が小さい問題が多くありました。「データの分布の傾向」において、正答率が区平均を4.1ポイント下回り、他の内容に比べ低い結果となりました。「1次関数」は、9年で取り組む「関数 $y = ax^2$ 」の基礎になる内容なので、式・表・グラフの関連付けや、増加量の求め方などについて、丁寧に復習していく必要があります。「データの分布の傾向」は、9年で取り組む「標本調査」の基礎になる内容なので、「四分位範囲」などの用語の意味や、データを読み取って説明することについて、丁寧に復習していく必要があります。	毎授業の導入に授業内容と関連した復習問題を行い、基礎学力の定着を図ります。「関数 $= ax^2$ 」の単元においては、表、式、グラフを相互に関連付けて考察できるようにするために、表から式を読み取る活動、グラフから式を読み取る活動を丁寧に行います。変化の割合も関数の変化と対応の特徴をつかむ手立てとして重要です。単に計算の仕方を覚えてその数値を求めることにとどまらず、その役割やグラフでの見方を知ることまで深めていきます。「データの活用」の単元においては、用語の暗記で終わらせるこことなく、簡単な場合について標本調査を行い母集団の傾向を判断する活動の中で、説明の際に活用することで、定着をはかっていきます。	基礎クラスでは、3～5問程度の復習テストをこまめに行い、基礎学力の定着を図ります。やりっぱなしにならないように、フィードバックを丁寧に行い、生徒が理解するまでそれを繰り返します。標準クラスでは、発展問題を取り扱い、さらに力を伸ばせるように指導を行っていきます。どちらのクラスも説明をする機会を多く設けるようにします。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理　科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	全国平均に対して校内平均が2.8ポイント低い数値となりました。全国平均からも同じ傾向ですが、地球分野の大地の変化、エネルギー分野の電気の利用の問題が苦手という結果となりました。また、全国平均から比較したときの市区町村と本校では植物のつくりとはたらきが正答率が低い結果となりました。また、全体的に記述をする問題が苦手な傾向にあります。大地の変化はICTの動画を活用してイメージを深め、電気の利用についてはなぜ、そうなるのかについて各々に文章や言語化できるようにしていく必要があります。	植物や大地のについて、ICT教材の活用と合わせて地域特性を踏まえながらもできる限り実物を観たり、触れたりすることで、興味を引き出していくきます。また、大地についての学習はイメージを深められるような教材を自作したり、理科備品の模型を活用しながら教科書を使った座学のみにならない工夫をしていきます。	記述で答える問題の前の問題の正答率は低くなく、選択肢で答える問題の無回答率はかなり低いため、理科の学習を意欲的に取り組んできたものと考えられます。苦手から理科が嫌いにならないような授業の工夫と、日々の実験や観察のまとめの時間を確保し、自分の言葉で記述や考えをまとめたり、発信したりすることを大切にした学習を行うことで、力を伸ばしてきます。
8年	平均正答率は、全国平均を1ポイント上回り、区の平均も3.7ポイント上回りました。内容別では、「火山」、「地層」の分野で全国平均を大きく下回りました。また、全国値や市区町村の結果でも同じような傾向にありますが、地球分野とエネルギー分野の「光の性質」、「力の性質」が正答率が低い結果となりました。地球分野はICTの動画を活用してイメージを深め、光の性質や力の性質は実験を丁寧に行い、作図を行ってイメージする学習を丁寧に行う必要があります。	大地についての学習はイメージを深められるような教材を自作したり、理科備品の模型タイプの物を活用しながら教科書を使った座学のみにならない工夫をしていきます。また、この学年の地球分野の学習は週に1時間の学習で進めてきたため、授業内容の連続性の部分で定着させることができ難しかったと考えられます。前時の振り返りや前時と本時の学習のつながり、単元毎の学習内容の振り返りの時間を大切に授業に取組みます。	基本的な知識や実験の技能については、定着ができています。しかしながら、全体的に「地球」分野の正答率は低く、1時間毎の授業の連続性を大切にしなければならないと考えられます。中学1年の理科は週に3時間であるため、1つの分野を連続して学びきった後に次の分野の学習を行う方が、生徒にとって学習しやすくなるのでは無いかと考えます。
9年	平均正答率は、全国平均を1.9ポイント、区平均も2.2ポイント上回りました。「知識・技能」の観点では、全国平均、区平均を上回り、「思考・判断・表現」の観点では、全国平均、区平均を下回りました。内容別では、「化学変化と物質の質量」で4.4ポイント、「日本の気象」で5.9ポイント、「電流の性質」で10.5ポイント、「電流と磁界」で6.7ポイント、全国平均を上回りました。「前線の通過と天気」の分野での正答率が全国の平均より10.7ポイント下回っています。教科書などの図だけでなく、実験や動画などを含めた丁寧な指導をする必要があります。	身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示して授業を行い、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開します。 既習事項の定着を図るために、授業の始めに、復習テストを実施し、既習内容を確認させます。単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりします。	定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 夏季休業中の課題として、それまでの学習内容の問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。 3年間の学習のまとめ問題集を用いて、これまでの学習内容を復習する機会をつくります。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	全国平均に対して、校内平均を3.7ポイント、区平均を1.2ポイント上回る結果となりました。前期課程で学んできた「聞くこと・話すこと」が中心の学習で基本的な英語力が定着していることが伺えます。内容別では、9つの内容のうちすべて全国平均を上回りましたが、2つは区平均を下回りました。「英文の読み取り」が区平均を1.2ポイント、「単語の読み」が0.7ポイント下回る結果となり、今後は「聞くこと」「話すこと」だけでなく、「読むこと」「書くこと」にも力を入れた指導の必要性があります。	英語を聞くことや話すことに意欲的な生徒が多いので、新しい単語や文法を導入する際はまずたくさん聞く、話すことを十分に行ってから読み・書きに繋げていくことが有効であると考えます。単語練習ではペアの生徒同士で確認をさせ定着を図ります。また、十分音読練習した文を書き写すなど、音と文字を結びつける課題を設定しています。英文を読み取ることに関しては徐々に文量を増やし、生徒にとっても負担感が少なく読めるようスモールステップで指導していきます。	基礎知識の定着を図るために、単元が終わるごとに確認テストやパフォーマンステストを実施し、定期的に学習内容を振り返る機会を設けます。また、語彙量を増やす必要があることから、長期休暇後にスペリングコンテストを実施することで、これまでに学んだ英単語の確実な定着を目指します。また、英語が得意な生徒がより力を伸ばすことができるよう、授業内でスモールトークを行ったり、学んだ表現を用いた自己表現をする場面をより多く設けることで、英文を書いたり話したりする力を伸ばせるような環境を整えます。
8年	全体を通じた校内平均正答率に関しては、区平均・全国平均ともに上回っていることから、基本的な学習内容が浸透していると考えられます。しかし、区平均を2.5ポイント下回った「語形・語法の知識・理解」と、1.3ポイント下回った「語彙の知識・理解」に関しては、学習した語彙や文法を確認した後、問題演習や口頭練習により繰り返し確認することが必要であると考えます。特に「語形・語法の知識・理解」に関しては新しい単語を覚えることに苦手意識のある生徒も多いことから、新たな語彙に触れる際に不安無く覚えられるように支援することが有効であると考えます。	語形・語法の知識・理解に関しては、新出文法の導入後に様々なレベルの練習問題を解くことで、知識をアウトプットする機会を設けます。語彙に関しては、新たな語彙を教える際に発音練習を丁寧に行うことで、その語彙の音と意味が結び付くようにします。また、ペアでの単語のチェックを行うことで、クラスメイトと協力して新たな語彙を習得できるように工夫します。また、毎単元後には小テストを行い、基本的な新出語彙・文法を計画的に学習できるようにします。	「情報に基づいて書く英作文」が区平均から2.1ポイント低かったこと、また「3文以上の英作文」が区平均から0.8ポイント低かったことから、教科書の内容に加えて、生徒自身の考えを英語で書く活動の機会を増やします。英語が得意な生徒はきたコンを使わずに書くことで、表現力の向上を目指します。英語が苦手な生徒はきたコンを使わずに書いた後に調べたことを付け加えて書くことで、自信をもって活動に参加し、意欲向上を図ります。
9年	校内平均正答率は59.0ポイントで全国平均を7.7ポイント、区平均を0.9ポイント上回る結果となりました。問題の内容別項目については4項目が区平均を下回る結果となり、特に「語形・語法の知識・理解」に関しては区平均を2.5ポイント下回る結果となりました。「語形・語法の知識・理解」と「語彙の知識・理解」の正答率が低いことが、「知識・技能」の観点別正答率の低さにつながっています。新しい文法・単語をペアワークや繰り返しの学習で定着をさせていくことが必要であると考えます。	9年生になり、授業に意欲的に取り組む生徒が多くなりました。英語が苦手な生徒も自分の知っている英語で伝えようとする姿勢がみられる一方で、相手が言っていることを聞き取る能力や、長文を読み取る能力には差があるため、個々の生徒に応じて指導を丁寧にしていきます。九年生は入試を見据えた指導もしていくため、既習の単語や文法を繰り返し復習する機会を設けていきます。また、読解指導の際には題材や文量を個々の生徒に合わせたものを用意するなどしていきます。	語彙を増やす取り組みとして、毎時間単語の読み練習をおこない、口頭でテストを行っているので今後も継続します。また、長期休業明けにスペリングテストを行い、書ける単語も増やしていきます。スピーキングテストの対策として、様々なトピックを用意し、会話練習を頻繁に行っていきます。その際ライティングも併せて行い、添削して返すことで生徒自身で言える・書ける英語を増やしていきます。